

関係各位

NR200701
2007年1月5日

社長年頭挨拶
(2007年1月4日)

取締役社長 内池 正名

新年明けましておめでとうございます。

2007年の新春にあたり、一言ご挨拶いたします。

昨年、日本電子計算株式会社(JIP)、日本証券代行株式会社(JSA)の両社によって株式会社JBISホールディングスを設立しましたが、非常に短い3ヶ月間であったというのが実感です。

さて、設立に当り当社の理念と、基本精神として以下の4点にまとめてスタートいたしました。

- 1 - 金融・証券・公共・産業・文教といった分野について重要なインフラを担うという社会的使命にコミットする。
- 2 - お客様第一主義を徹底し、使い易いソリューション・サービスをタイムリーに提供する。
- 3 - 最先端のソリューションを追及し、幅広いビジネス・パートナーと協業する開かれた企業集団となる。
- 4 - 経営の安定と継続的成長に基づく企業価値向上に努める。

これらの精神を具体的な行動によって実現する必要があるわけですが、異業種である日本電子計算株式会社、日本証券代行株式会社の両社の事業活動から生まれる

- ・ 新しい価値を市場に提供していくことでお客様のイノベーションに貢献できているか。
- ・ 変化する金融・証券界でのプロセスの進化に対しITと事務(プロセス)のシナジー効果をご提案できているか。

・ お客様の経営課題の解決に貢献できているか。
などの観点で私たちの活動成果を評価してみたいと思います。

昨年は、当初想定いたしておりました以上のスピードで施策を実行する必要がありました。それはお客様からの私たちに対する期待値の高さもありましたが、JBISの経営者として両社の強みを早期に具現化させる必要があったわけです。例えば、両社にとって極めて重要な位置づけにある金融証券ソリューション分野の、お客様を取り巻く環境として、次のことが挙げられます。証券決済制度改革の最終ステージにあること、バーゼル の実施、金融商品取引法の施行、金融改革プログラムの実施、電子登録債権制度の導入など、非常に幅広い観点で対応を求められています。そのような中で、JBISとして統合したソリューションを構造化してご提案することが出来ました。

証券総合システムであるSIGMA21(シグマ21)、口座管理機関システムであるSTAGE/TIME(ステージ/タイム)、電子証券に関わる証券決済制度対応システムRENOVA(レノバ)等を初めとする製品群でサービスのご提案を進めました。それは、日本電子計算株式会社、日本証券代行株式会社両社が持っていたソリューションやサービスを組み合わせることで、お客様の経営課題を解決する視点からJBISのもつ具体的な価値をお客様にご提示し、またお届けするというシナジー効果で確実に実施され始めました。こうした動きは今年、加速することはあっても減速することはありません。

また、広い協業を指向することでより多くのお客様に私たちのソリューション・サービスをご提供できるよう、さらに活動を推進させたいと考えています。この点は金融・証券という事業領域のみならず、公共・文教・産業という事業分野において今まで協力関係にあった各社と再度中長期的な事業戦略を描き、協業分野を広げかつ深めたいと思います。それは単なる補完関係を越えて、新たな価値の創造を目指すこととなります。

お客様の変革に貢献する戦略の一つとして協業を本年より具体化してまいります。

日々の活動の中からも、私たちの「気づき」もいくつか見えてきました。両社が共同作業を行なっていくことで視点の違い、過去における仕事の仕方の違いなど一概にどちらが正しいか、という議論ではない領域での「気づき」です。しかし、これらの違いも冷静に外部環境や状況を読み取り、私たち自身の立場や力量を客観的に評価すること

から自ずと選択すべき戦略や戦術は明らかになっていきます。そうした「気づき」を迅速な行動に結び付けていくために求められる組織風土は

「闊達で多様な視点からの議論を進め」、

「常に仕事(プロセス)の品質向上・改善に努め」、

「変化に挑戦する」、

そうした、組織風土を醸成していきたいと思えます。

2007年がJBISやグループ各社の社員の皆様の成長の一年になるよう期待しております。

以上